

# 常盤公園の誕生

当時の新聞記事で振り返る

## ときわ公園 タイムズ

Tokiwa Park Times

### その1

1924年(大正13年)2月21日  
1935年(昭和10年)1月16日

※古い新聞記事は現代の文体に合わせて再編集しております。あらかじめご了承ください。

## 渡邊翁の寄付

1924年(大正13年)12月11日

渡邊翁の寄付  
今般渡邊翁が常盤湖畔における上田氏別邸及びその付属地一切を買収して共同義会に寄付したことは絶大無辺の一大教訓だ。

今般渡邊翁が常盤湖畔における上田氏別邸及びその付属地一切を買収して共同義会に寄付したことは絶大無辺の一大教訓だ。世の人はこれを聞いて渡邊氏は感心だと思やみやらに感心するだけで自分の教訓として拳々服膺(けんけんふくよう)の実をあげんとするものはおそろく少ないだろう。

翁のこの行為から得られた教訓とはどんなものか。僭越ながら筆者が少し臆測を試みよう。

その一は、自己と国家を合致させること。自分の利益は即、国家社会の利害であるとの信念を実現することである。翁のこの行為で筆者は切実にこの信念を植

### 常盤湖畔 上田別邸の買収説

1924年(大正13年)2月21日

常盤池における上田孫市氏の別邸は、上田氏の財政上の都合により、渡邊氏に売り渡された。さらに渡邊氏から共同義会に寄付されたことが話題になっていく。確かな筋に聞くと、元来上田氏の希望としてこの土地を他の地方の人に譲るのは遺憾だから、な

今後、この土地が共同義会所有か、別の方法で市の公共物となり、公園の一部として開放するかは議論の余地がある。

共同義会のお蔭で市有になった常盤公園。市民は大手を振って行ける。同時に保護の責任もある。

## 常盤公園開設 共同義会のおかげで市有化 市民には公園保護の責任も

1925年(大正14年)6月28日

以前より話題となっていた常盤公園の市有化問題は、議案に提案され、満場一致で可決された。これまで個人所有であったため、公園を利用する市民は遠慮せざるを得なかったが、今後は市の公有となり、誰もが大手を振って利用できるようになる。同時に、市民一人ひとりに公園を守る責任が生じることにもなった。

今回の市有化は、前所有者である上田孫市さんが発意。渡邊祐策氏ら有力者のあつせんを得て市議案が提案を引き受

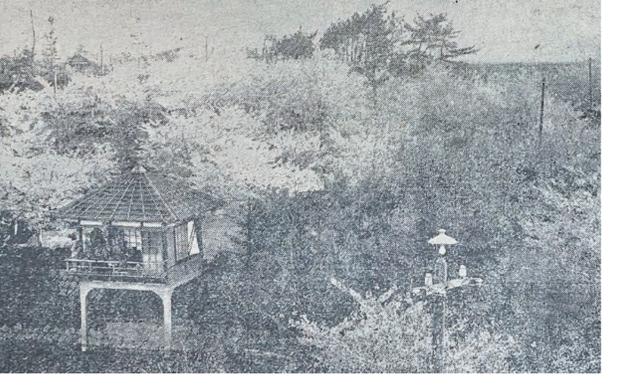
け、市に寄付した。公園の面積は約6000平方メートル。市議案と渡邊氏が購入費を負担した。市は今後、適切な方法で用地の拡張を図るとともに、各種の設備を整備する方針という。

## 雨欲しや、今秋は野菜飢饉か 常盤池の水もあと10日

1929年(昭和4年)9月7日

近年稀な大干ばつを受け、常盤池ポンプ揚水施設を設置した後も、水量が増えず目下の状態から察するに今後わずか10日ほどの揚水量がやると。少しでも降雨がないと、成熟期までの維持はおぼつかない。今秋は野菜類が市場に影をみせず、市だけでなく他の地域での入荷も途絶え市民は野菜飢饉に遭いはすまいか。

初期の頃の常盤公園



## 経費は渡邊家が寄付

炭都名勝地の随一、常盤公園桜山の市買収問題は、同園経営者、木下芳太郎氏の手を経てその実権を握る渡邊家が既に故渡邊翁が存命のときから市へ寄付する計画があったが、諸種の都合で今までその実現を見なかった。今回、その子息、剛二氏が渡邊翁生前の遺志を継いで市へ寄付の意向を伝えた。市も大喜びで、藤田

## 炭都随一の名勝地・桜山公園を市が買収

1935年(昭和10年)1月16日

市参事会を経て市議会で議決されることに決定した。問題の桜山は1・6畝でその買収価格は3万5000円(当時価格)。名前の通り、桜の名勝地として関西に誇り、炭都市民の楽園地である同公園も桜山の個人経営により長らく一般民衆へは実質的に公開を阻まれていたが、いよいよ大衆に門戸を開放し、名実ともに常盤公園としてデ

## 3斤超ナマズや1.5斤鯉の伝承も 常盤池の魚類入札 13日午前10時決行

1929年(昭和4年)9月12日

協議の結果、13日午前10時本土堤で常盤池の魚の入札することを公示した。1.5斤以上の鯉や3斤を超えるナマズもいと伝えられていたが事情通によると、鯉は1.2斤くらいが最大でフナが18~20斤、ナマズは0.6斤くらいという。

## またも常盤池の難 本土堤崩壊、捕魚入札中止 床波県道は車、馬禁止

1929年(昭和4年)9月13日

千ばつの災難の渦中にある常盤池にまたもや難が振ってわいた。土堤が11日午後5時ごろから少し干割れを見せて同8時ごろには最初の崩壊を見せ、さらに続いて大崩壊した。現在、県道の一部は破壊され、馬車、自動車の通行は禁止となった。

## 一夜の中に立身出世 思いのままに守らせたまふ 常盤の飛び上がり地蔵

1929年(昭和4年)9月19日

常盤池の堤防が一大音響と共に崩壊した。その中からびよっくりと現れた石の地蔵尊。五色の彩雲が天にたなびきも何ともしなかつたが、ともかくも時が時で、場所が場所。神秘の伝説に包まれた常盤の底を見せたという稀有な現象と相まって、地蔵尊の噂もたちまち四方にパッと広がり、噂は噂を呼んで尾が付き、ヒレが付いて、市外に遠く下関、長府まで大評判。関西一の常盤の池から不思議な地蔵尊が飛び出した。しかも6尺の地蔵から一夜の内にこつせんと地表に飛びあがり、天地鳴動して堤防もそのために破壊するに至った。ああ不思議との評判は輪に輪をかけて広がっていくので地元の人々が一向に知らないうちに、名称も「常盤の飛び上がり地蔵」ということになっていくわけでした。この飛び上がり地蔵に祈ると一夜のうち立身出世ができるとの効能書きまで添えられている。か。一体、この地蔵尊は作られた時期は不明ながら、常盤6地蔵の一体。5、6年前に何者かがこの



写真は昭和37年4月 飛び上がり地蔵移転落成式の様子



外門山櫻園公盤常(所名部字)